

ハチ博士の ミツバチコラム

29



京学都園大
学バイオ環境学
部 坂本文夫教授

イヌツゲ

初夏のある日キャンパスの歩道を歩いていたら、ミツバチらしい羽音が聞こえてきました。かなり大きい羽音なのに姿が見えません。付近にあるのは球形に刈り込んだ1m足らずのイヌツゲの木だけです。もしやと思って緑色の表面の枝葉を両手で押し広げてみると、なんと沢山のミツバチ達が白い小さな花に群がっているではありませんか。それまで気が付かなかったのですが、イヌツゲの花は刈り込まれた枝葉の裏に隠れるように咲いているのです。

イヌ〇〇という名前の植物が相当あります。例えば、イヌシデ、イヌマキ、イヌブナ、イヌビワなどで、イヌという接頭語がつくと本物より格下で、〇〇モドキと同じような響きがあります。イヌツゲもその例にもれず、ツゲ（黄楊）の一段下の存在です。ツゲが印鑑や櫛の材料として珍重される硬い材質なのに対して、イヌツゲは柔らかか



イラスト おおくぼひとみさん

く細工物には不向きであるためにその名前がついたと思われます。しかし、両者は葉っぱが似ているだけで、ツゲはツゲ科、イヌツゲはモチノキ科と全く別系統の樹木なのです。

ツゲも小さな黄色の花をつけますが、蜜源になるという記載は見つかりませんでした。一方、イヌツゲは優れた蜜源であるクロガネモチやソヨゴなどと同系統で、ミツバチが大好きな蜜源なのです。人間の都合で名前が付いたのだから仕方がないのですが、良い蜜源であることを大いに宣伝してイヌツゲの名誉回復に役立てたいと思います。